【栃木県】

栃木県立矢板東高等学校
リベラルアーツ同好会Progress

高校生ボランティア・アワード2025

地域の特色を活かした交流

活動概要

私たちは、地域課題に対して「１歩踏みだす」ことをモットーとし、活動してきた。２年前から同好会としての活動が始まり、今年度で３年目を迎えることができた。

昨年度の主な活動

１　地域課題解決～生乳生産量２位の栃木県の抱える問題～

牛乳の大量廃棄に問題意識をもち、牛乳の消費量を増やすためにできることを考え、企画案を矢板市に提案した。

昨年の１２月に企画が実現し、親子で考え・体験するフードロス教室を開催した。

第１回目の企画の打ち合わせ

フードロス教室当日

市が作成したポスター

２　第１０回全国ユース環境活動発表大会関東地方大会出場

環境活動に取り組む団体として評価され、関東地方大会への出場を果たし、他校の生徒とも交流を図った。

地域の特産品である牛乳×りんごをテーマとした取り組みとして発表を行った。

「多世代交流のハブを担う」

活動の目的･志など

私たちが「１歩踏みだす」ことで、問題解決のハブを担う。

・つながる
　地域課題と向き合うこと
・つなげる
　抱える課題や問題を共有したり、一緒に考え行動したりして、日常の生活を通した気づきを大切にしながら、私たちなりの解決方法で地域活性化を目指す。その中心を担うハブの役割を、多様な人たちとの交流の中で果たしていく。地域の人たちは、私たちのアイデアの実現に前向きに検討してくれている。だからこそ、その期待に応えていきたい。

活動が評価され、審査員として交流を果たす

郷土料理を守る
～ご当地タニタごはんコンテストの審査員を通して～

これまでの同好会の活動が評価され、昨年度、企業のSDGｓの取り組みを学ぶ機会を得た。

全国から選ばれた１５チームのアイデア料理を実際に試食し、審査を行った。健康と現代風をテーマとし、郷土料理を新しい地域特産品として育てようとする取り組みを知ることができた。

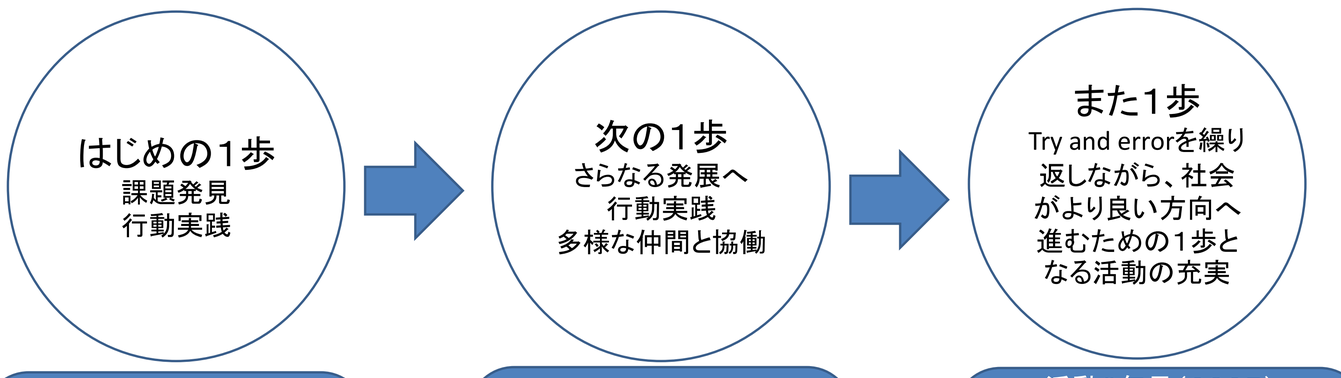
選ばれた料理はそれぞれ、地域愛が伝わるものであった。

「1歩、また1歩前へ」

私たちだけでは、出来ないことが多い。しかし、思いを共有してくれる人や応援してくれる人は身近に存在する。

私たちの１歩は小さいかもしれないけれど、同じ方向を向いて多くの人が１歩踏み出せば大きな力に変わる。

私たちの活動は、世界を変えるような大それたものではないけれど、身近な地域が少しでもよくなるように、遠く離れた地域にも少しでも支援ができるように、そう願って全力で取り組んでいく。



活動1年目（2023）
地域課題解決の発見
コロナ禍で牛乳の消費量が落ち込んだことを知る。
酪農家へのインタビューを行い、酪農の実情を知る。

活動2年目（2024）
様々なコンテストへの出場
自分たちの活動を知ってもらうべく、様々なコンテスト等へ出場する。そこでの交流を通して、新しい知見を得るとともに、交流の輪を広げる。

活動3年目（2025）
さらなる社会問題の解決へ
牛乳の消費量･廃棄量問題にとどまらず、問題山積みな地域課題の解決に向けて、地域の方々と協力した取り組みを行い、多世代交流のハブを担う。

活動のモットーである「１歩前へ」に合わせ、歩き出す足をメインに描いた。
背景は矢印の先の三角で進むイメージを表している。そして、私たちの活動のきっかけとなった牛乳の色と、矢板東高校の制服の特徴的な色である青を組み合わせた。

主な活動の詳細

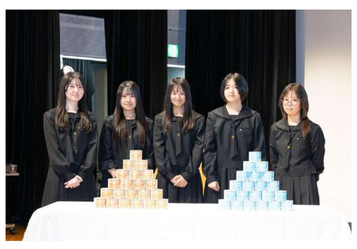
- ●第３回コノヒトカン１０００缶プロジェクト社会課題解決アイデアコンテスト本大会出場
  １次審査を通過した２４チームのうちの１チームとして、岡山県での本大会に出場することができた。
- ●第７回ご当地タニタごはんコンテストヘルシー郷土料理で健康まちおこし…高校生審査員として参加
  これまでの同好会の活動が評価され、環境活動に取り組む高校生として、審査員に選ばれる。
- ●第１０回全国ユース環境活動発表大会関東地方大会出場
  牛乳の消費量問題をテーマとし、地域課題として取り組む必要性を訴えた。
- ●矢板市生涯学習課との企画・運営　親子で考え・体験するフードロス教室開催
  念願であった、多世代交流の場を企画・運営した。当日は６組の家族と食品ロス問題の解決策を考えた。
- ●フェアトレード普及活動　バレンタイン大作戦２０２５の企画・運営
  同好会の恒例行事となった、フェアトレード商品の販売を行った。

「豊かさの裏側で起きていることを、問題視していきたい」

農林水産省によれば、日本の１年間の食品ロスは、約612万トン（2017年度推計値）といわれている。

日本での食品ロスの原因は主に２つである。

①事業系食品ロス（328万トン）
　・小売店での売れ残りや返品
　・飲食店での食べ残し
　・規格外品といった事業系食品ロス
②家庭系食品ロス（284万トン）
　・家での作り過ぎによる食べ残し
　・購入したのに使用せずに捨ててしまう
　・料理における皮のむきすぎ



第3回コノヒトカン1000缶プロジェクト社会課題解決アイデアコンテスト本大会に出場した際には、他県の高校生や大学生と地域課題の解決について、話し合うことができ、活動の参考になった。

どの項目も、私たちの身近で起きている日常の出来事の１つに過ぎないかもしれない。しかし、世界では９人に１人が栄養不足で苦しんでいる現状があるため、私たちは豊かであるがゆえにこの食品ロス問題を軽視しているといわざるをえない。食品ロスは大量廃棄問題としてだけではなく、環境にも大きな負荷をかける。だからこそ、全力で取り組むべき課題だ。近年ではSDGsの普及によって食品ロス削減への取り組みが、企業や自治体などでも活発になってきた。これらの動きに高校生である私たちが協力することは、決して難しいことではない。

これからも地域の人たちとアイデアを出し合いながら、私たちなりに１歩１歩目の前の課題を解決していく。

活動団体プロフィール

2023年に発足した同好会。
チーム名の Progressは、物事が前に進むことを表す。また状況や能力の向上といった抽象的な進展も含まれていることから、私たちの取り組みによって少しでも社会問題が解決に向かうことを願いチーム名とした。様々な人たちとの交流を通して、私たち自身の創造性や協働力も培われてきた。今年度の活動目標は、活動の幅をより広げていくことである。